



三重県における現状 3

都市圏在住の 三重県出身者の声

三重県と都市圏の違い

三重県が実施した都市圏在住の三重県出身者^(※3)へのアンケート^(図11)によると、子育てや家庭、仕事等における固定的な性別役割分担意識を都市圏よりも三重県でより強く感じていることが示されました。

また、都市圏在住の三重県出身女性^(※4)へのヒアリングによると、就職先を選択する際に重視することとして、「自分の専門性や学んだことを活かせること」、「何らかの成長につながること」、「働き続け

根強く残る固定的な性別役割分担意識
三重県ではキャリアビジョンの実現が難しい？

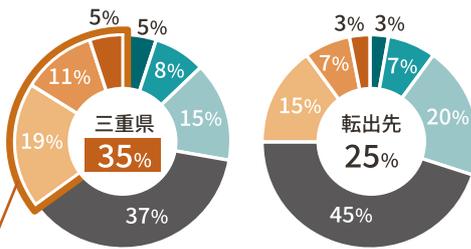
若い女性の転出が止まらない背景には、子育てや家庭、仕事に対する固定的な性別役割分担意識があります。若者は、理想の働き方、働き場所が県内では見つからないと感じています。

やすい環境であること（土日休み、育児のしやすさ）、「給与が高いこと」等が挙げられています。加えて、同ヒアリングにおいては「理想の働き方、働き場所が県内では見つからない」、「自分に合う仕事がない」と感じている人も見られました。



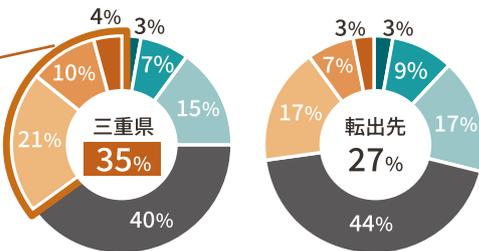
図11 都市圏在住の三重県出身者へのアンケート

三重県と転出先それぞれについて「女性は子育てや家庭を優先すべきだ」と考える人が多いと感じる



出典：三重県「転出者女性の転出理由等に関するアンケート調査及びヒアリング調査」
(令和6(2024)年度)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001193669.pdf>

三重県と転出先それぞれについて「女性の求人は男性に比べて補助的な仕事ばかりだ」と感じる



■ まったく同意しない
■ 同意しない
■ あまり同意しない
■ どちらとも言えない
■ やや同意する
■ 同意する
■ 強く同意する

都市圏在住の三重県出身者のうち35%が三重の固定的な性別役割分担意識を感じています

※3 都市圏在住者であり、かつ、三重県に居住経験のある男女および三重県在住者であり、かつ、都市圏への転出経験がある男女
※4 都市圏在住者であり、かつ、三重県に居住経験のある女性

都市圏在住の三重県出身女性へのヒアリング(主な声)

親の働き方を見る中で、**三重で働くのは刺激が少なく**のほほんとしているイメージがある。(10代女性、京都府在住)

三重にいたころ、家族と先生以外の大人にあつたことがないため、**三重に住みながら勤めることができる仕事が想像できていない**。(10代女性、東京都在住)

将来的にリターンは考えているが、**自分に合った仕事**が三重にあるかが懸念点。(10代女性、東京都在住)

東京の会社は福利厚生がよく、給与も高い点で魅力的。(10代女性、東京都在住)

地元には**研究開発部門の求人**がなかったため、大阪を中心に就活をした。(20代女性、大阪府在住)

エンジニアとして成長するのであれば、**都会の会社の方が合っている**と感じる。(10代女性、大阪府在住)

三重の会社で理想的な働き方ができるとは考えづらい。そのため、都会の会社に所属してリモートワークで働くなど、働き方の工夫が必要。(10代女性、大阪府在住)

出産・育児中も辞めずに**正社員**でいたい。(10代女性、京都府在住)

三重に戻りたいものの、**自分の意向(生活に余裕のある収入、土日休み等)**に見合う就職先が行政しかない。(10代女性、東京都在住)



出典：三重県「転出者女性の転出理由等に関するアンケート調査及びヒアリング調査」(令和6(2024)年度)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001193669.pdf>

COLUMN

「何かを諦める」地域から「全て叶う」企業へ。 経営者の決断が鍵

女子学生が県外へ流出する背景には「地方では理想のキャリアと家庭を両立できない」という諦めがあります。この構造的要因こそが、根強い性別役割意識です。若者はこの空気を敏感に察知し、フラットな都会へ逃げています。

これを止めるには、多様性確保を「合理的な経営戦略」と定義し、KGIに据える覚悟が必要です。地域の常識を覆す具体的な数値目標と行動こそが、優秀な人材に選ばれ続ける最強の武器になります。



一般社団法人明和観光商社
代表理事

皇學館大学 現代日本社会学部
現代日本社会学科 教授

千田 良仁 さん